

2020 年度
松本大学 卒業生アンケート
調査結果

2020 年 9 月 23 日

松本大学 内部質保証室

【調査の概要】

対象：332名（2020年3月卒業者）

調査方法：質問指標によるWEB回答

調査期間：2020年7月20日～2020年8月17日

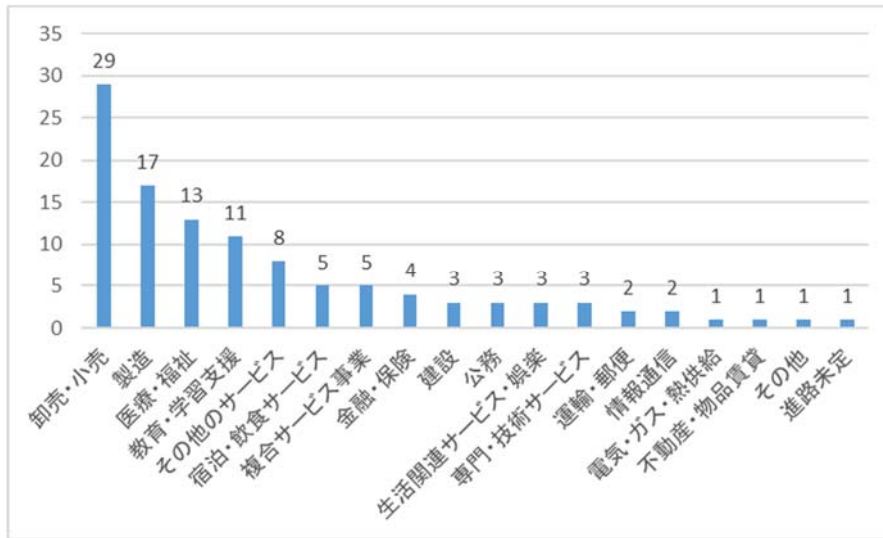
回答数：112名

回収率：33.7%

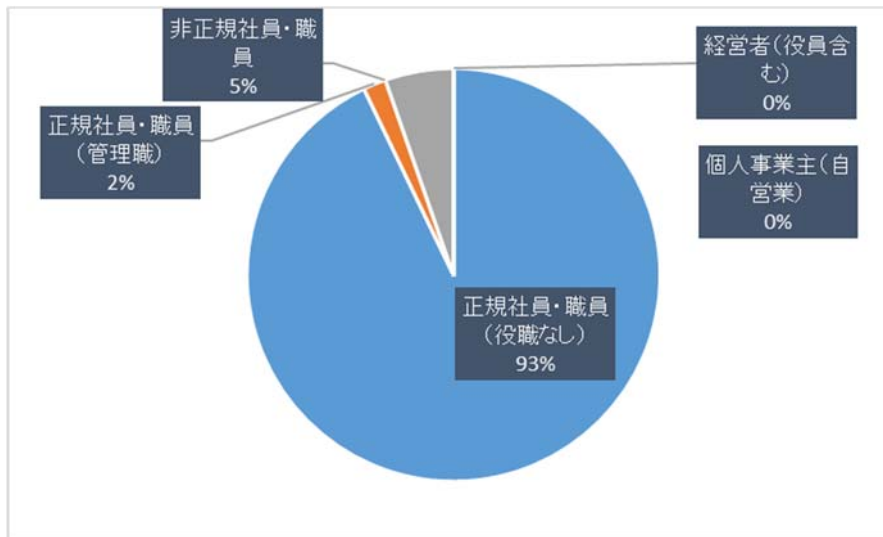
回答者の属性

学部学科	回答者		
	男性	女性	計
総合経営学部 総合経営学科	18	10	28
総合経営学部 観光ホスピタリティ学科	17	7	24
人間健康学部 健康栄養学科	4	20	24
人間健康学部 スポーツ健康学科	20	16	36
合計	59	53	112

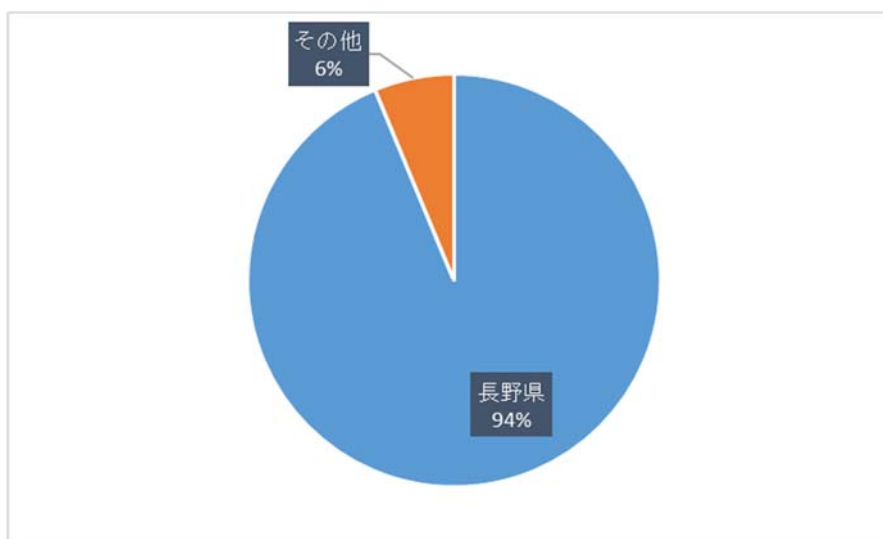
【問1】 就職先の業種



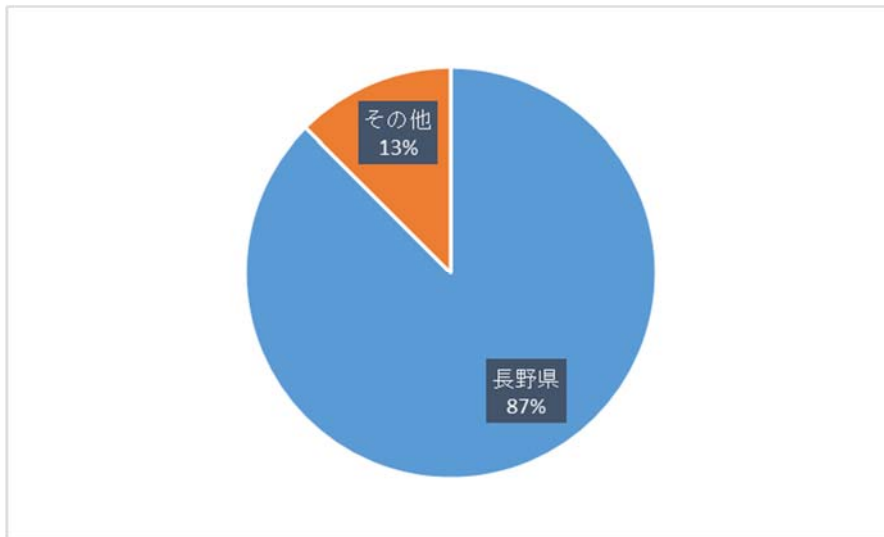
【問2】 現在の就業形態



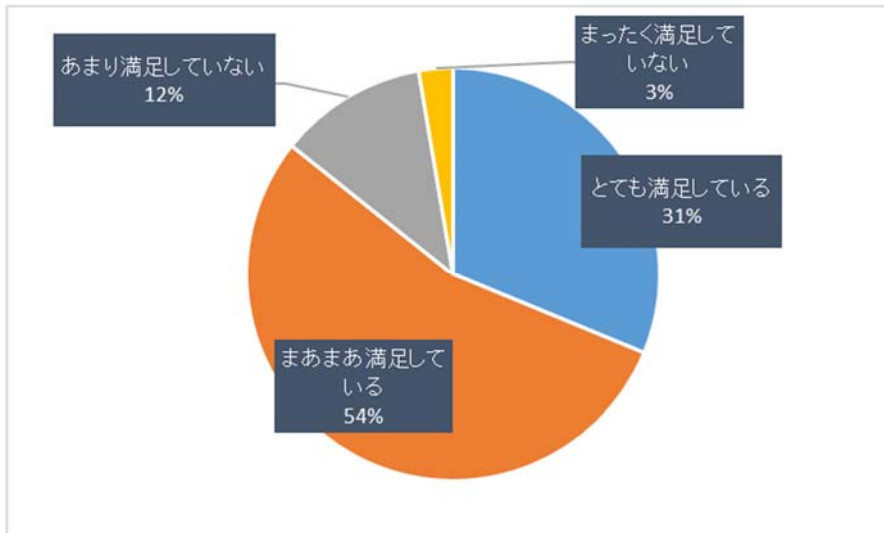
【問3】 出身地の都道府県 (出身高校の所在地等)



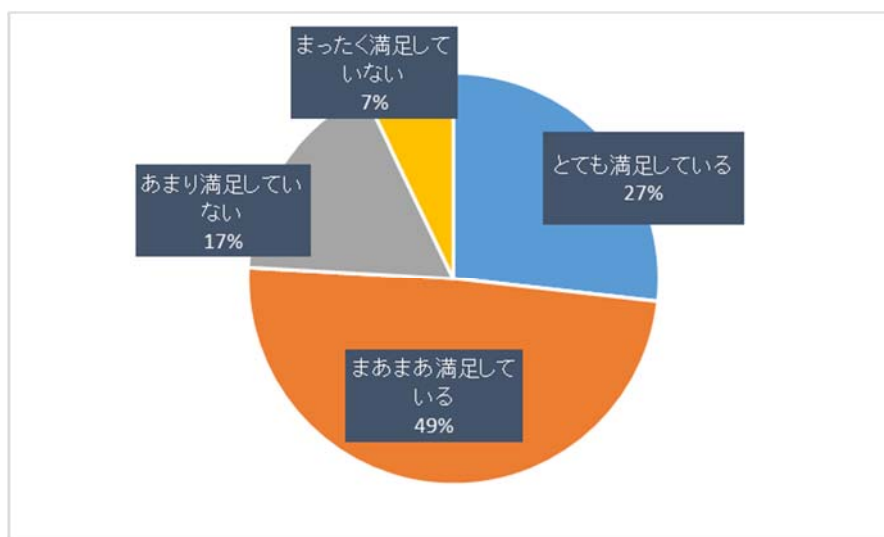
【問4】現在の居住の都道府県



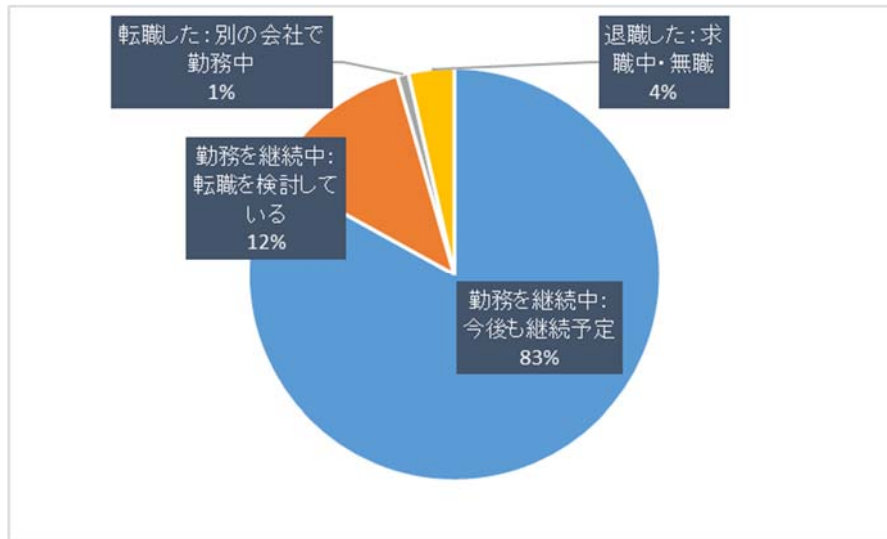
【問5】卒業後（卒業時点）の進路満足度



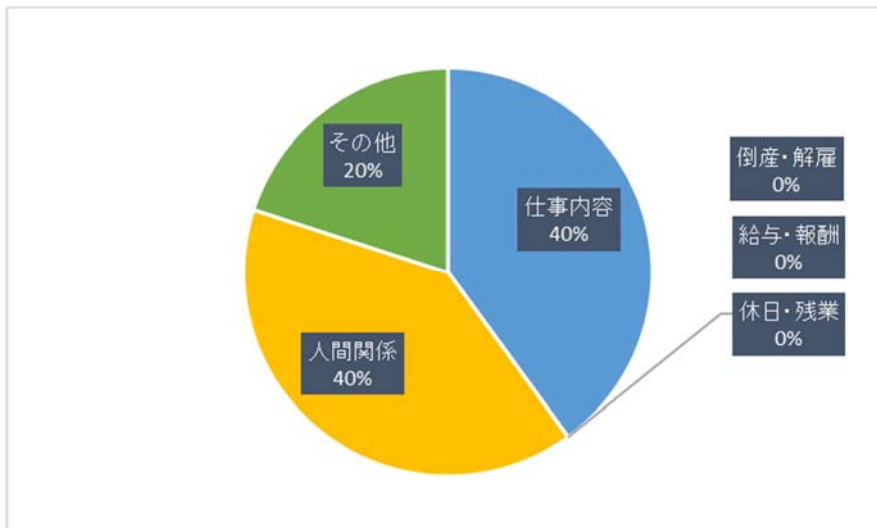
【問6】現在の仕事に対する満足度



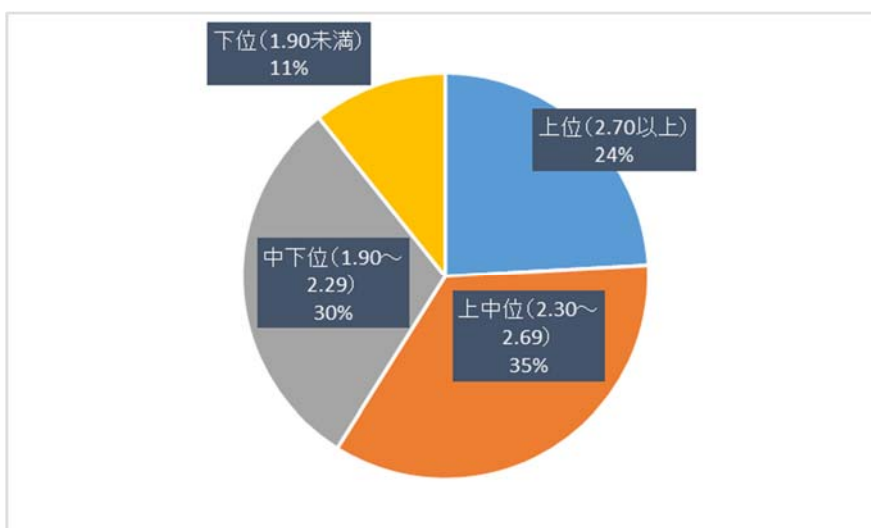
【問7】 就労の状況



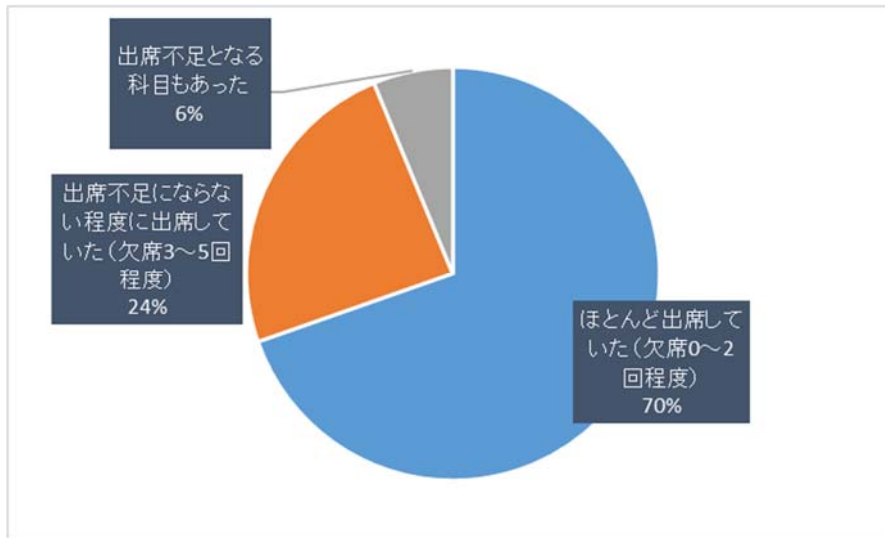
【問8】 転職・退職した主な理由 (対象者のみ)



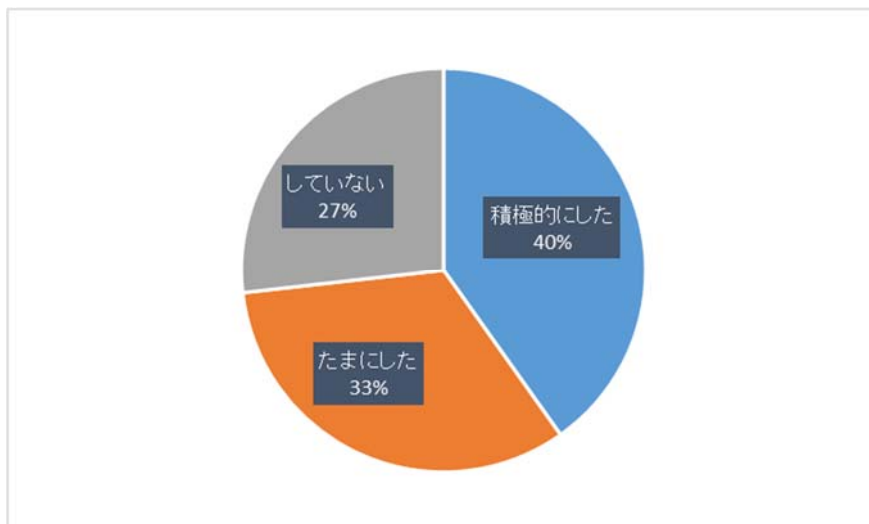
【問9】 在学中の成績 (GPA)



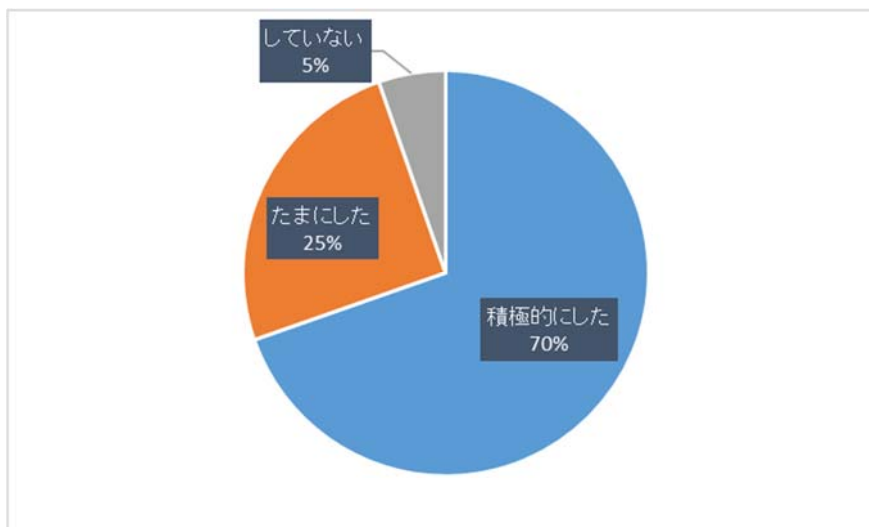
【問10】 在学中の出席状況



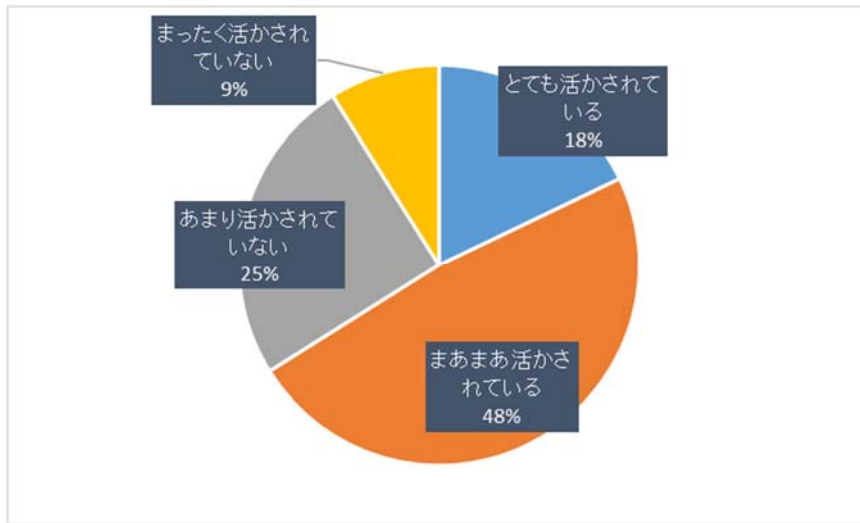
【問11】 在学中のサークル・部活・ボランティア活動



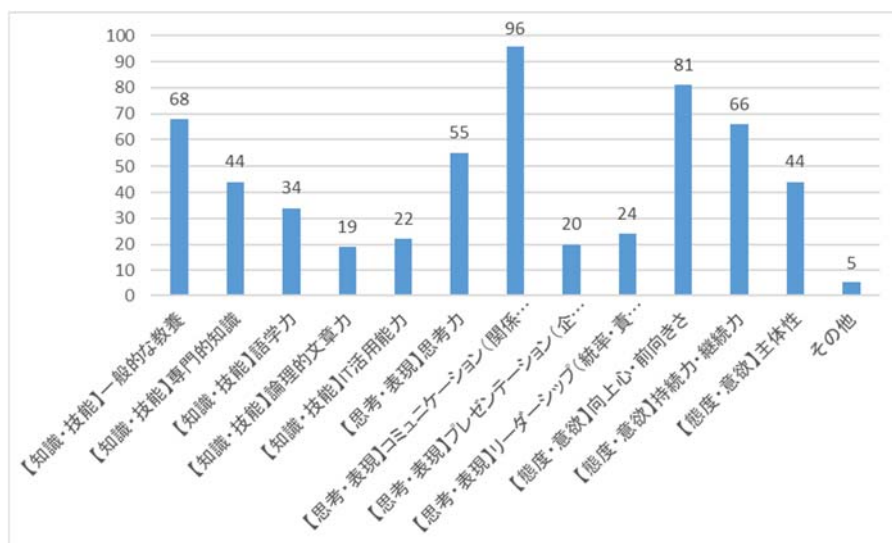
【問12】 在学中のアルバイト経験



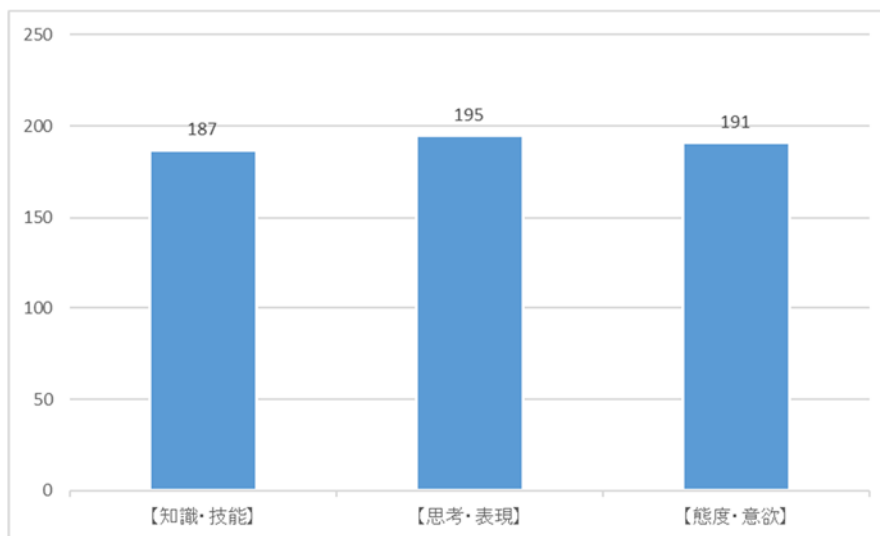
【問1 3】 在学中に身につけた学力や資質・能力は卒業後の進路で活かされていますか



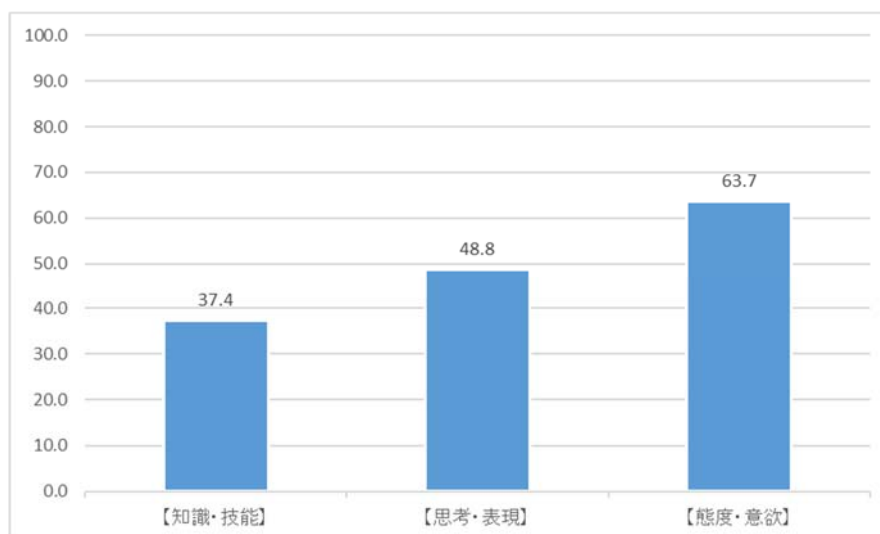
【問14】社会（職場）で必要とされている能力・態度等（複数回答可）



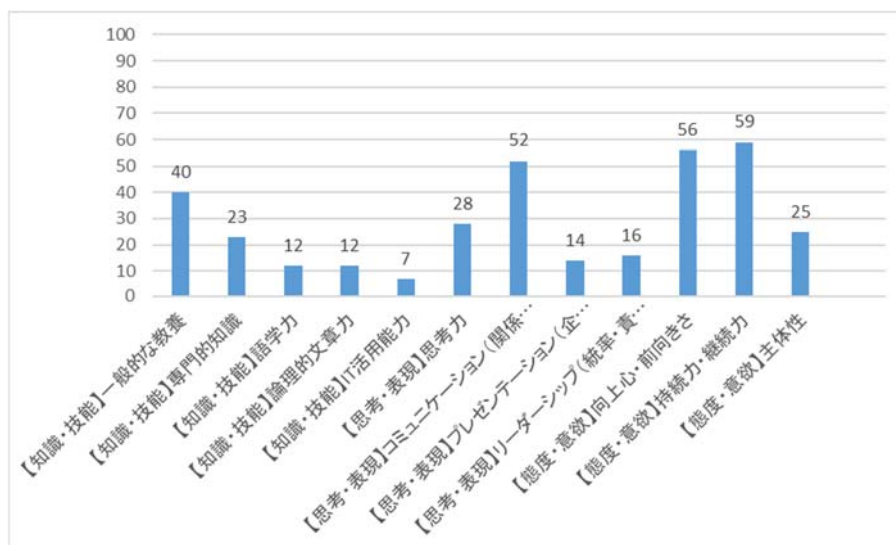
・学力の3要素での集計（合計）



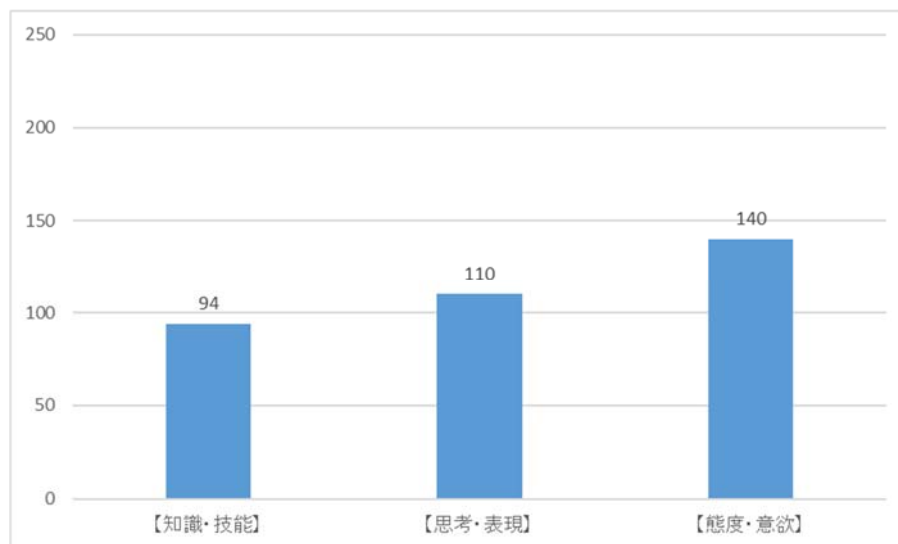
・学力の3要素での集計（平均）



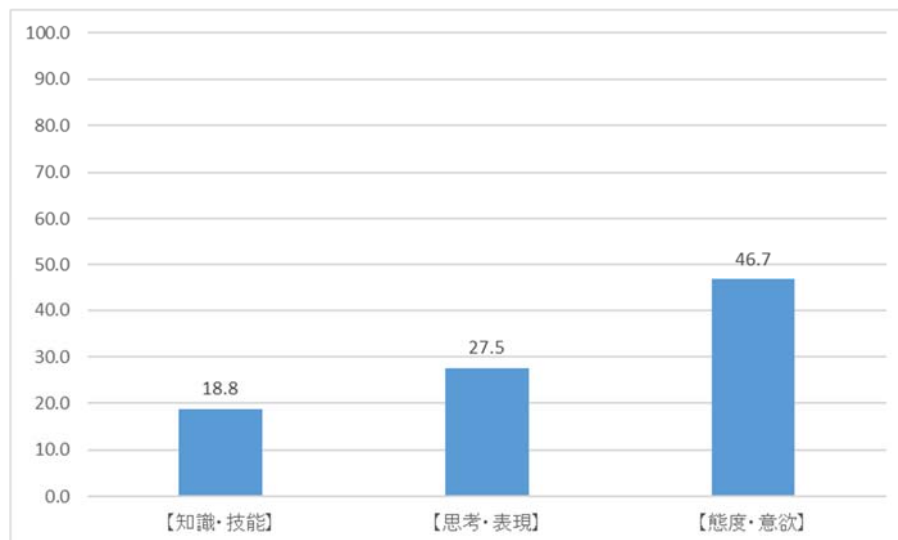
【問15】自分で修得していると感じる能力・態度等（複数回答可）



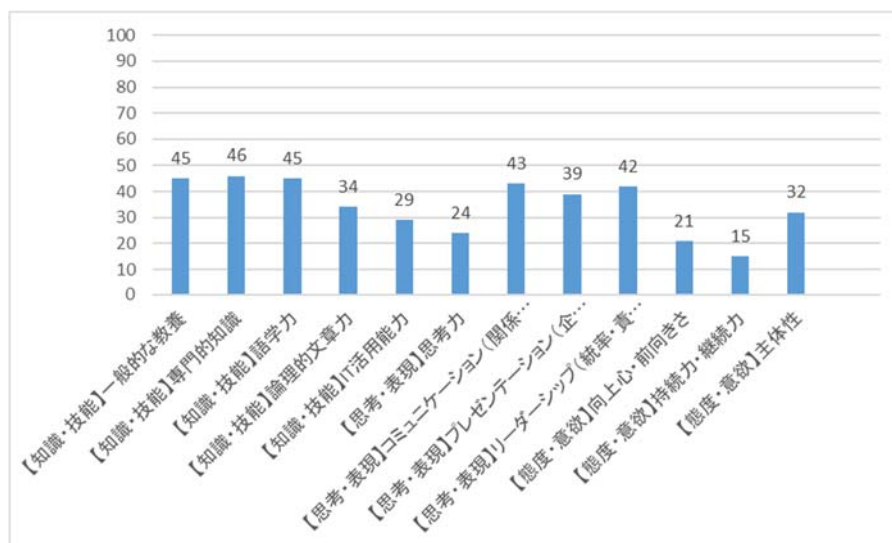
・学力の3要素での集計（合計）



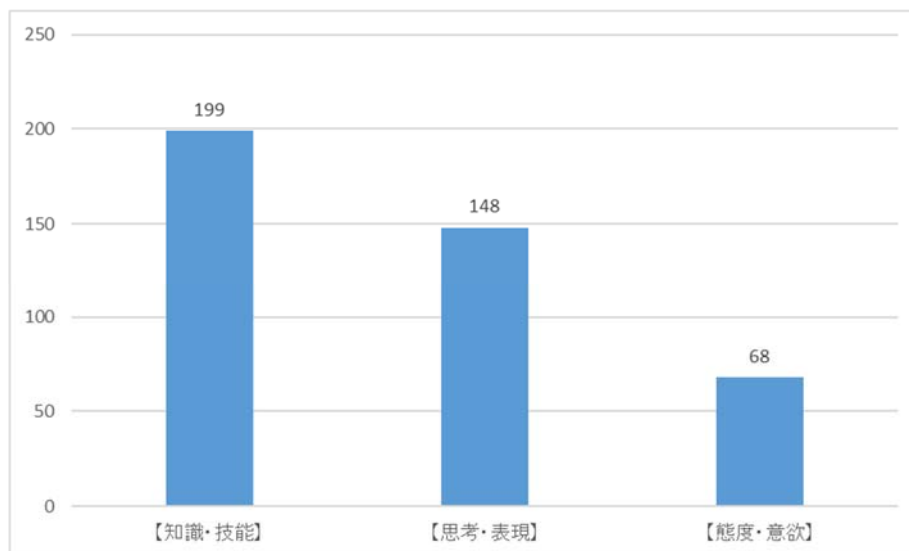
・学力の3要素での集計（平均）



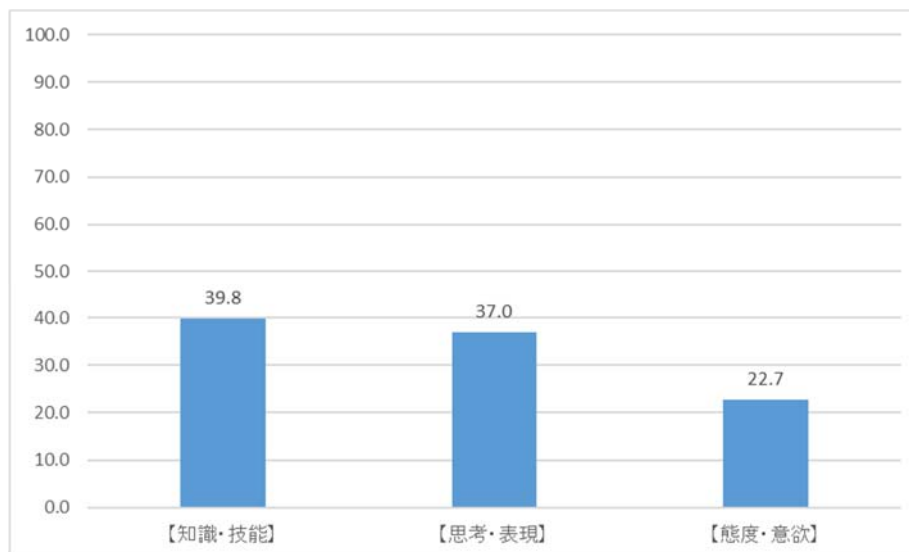
【問16】自分が不足していると感じる能力・態度等（複数回答可）



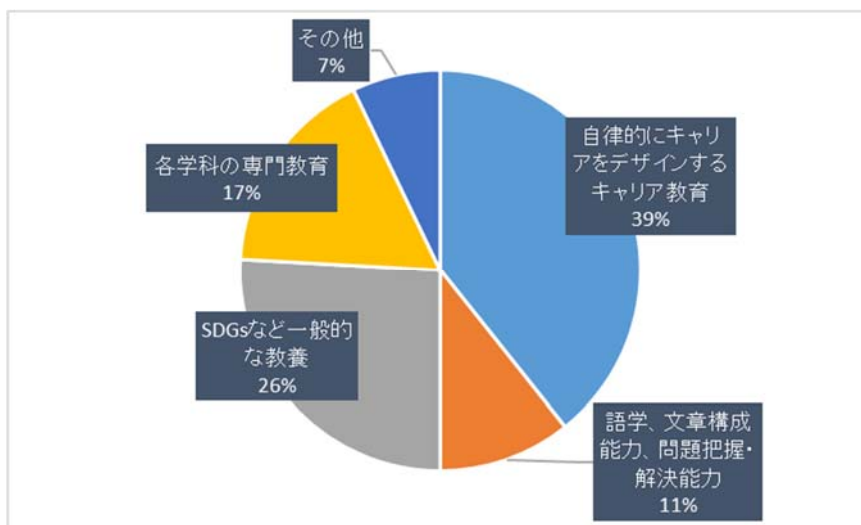
・学力の3要素での集計（合計）



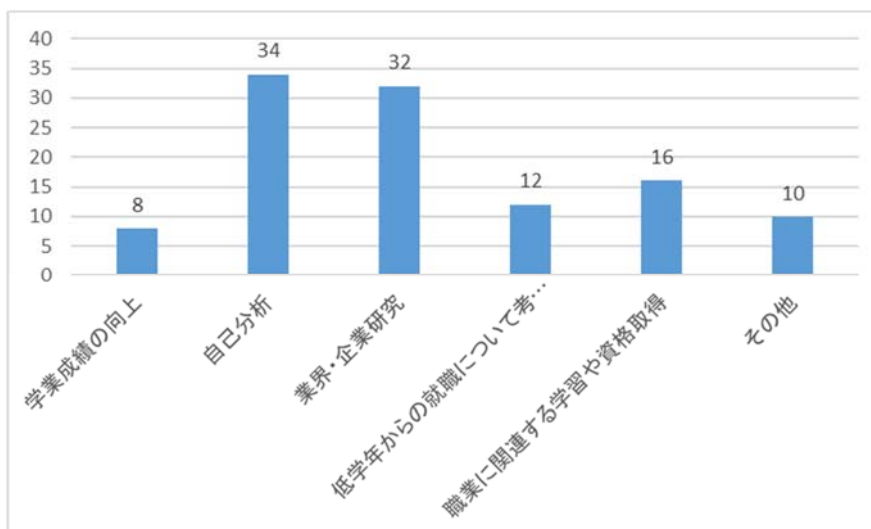
・学力の3要素での集計（平均）



【問17】卒業後の進路を踏まえて、本学教育で特に力を注ぐとよいと思える教育分野は何ですか



【問18】特に必要だと思う就職に向けた準備は何ですか



【問19】卒業後の進路を踏まえて、本学の教育についてご意見がありましたら、記入してください（任意）

（総合経営学科）

- ・大変満足しています。キャリアセンターがあることで非常に救われました。
- ・進学でなく就職するなら、学生には是非アルバイトを勧めてほしいです。
- ・就職後、Excelは思った以上に使用する機会が多いので力を入れて教育すべき。また講義は1年生の必修だと記憶が薄れてしまうため、3-4年生の科目として取り入れたほうが効果的であると思う。

（観光ホスピタリティ学科）

- ・専門研究は、選択ではなく必修科目として全ての学生に教授ごとの専門的な知識をもとに社会や、物事について興味関心を持って学業に取り組んで欲しいです。
- ・四年生の後期に受けた「社会人になるために」の講義のおかげで、入社後の研修で報告書の書き方について褒められました。とても役に立ちました。ありがとうございました。
- ・業界・企業研究に関して、もっと考察や考えを深める講義があればいいと感じた。ただ業界・企業の特徴や概要をさらっとなぞるのではなく、なぜそうした特徴なのか、抱えている課題は何なのか、それを解決するにはどういった方法があるのかを、生徒が考えて自分なりの答えをまとめる課題が必要だ。そうすれば、業界・企業研究がより深まるだけでなく、生徒の思考力や分析力を高め、将来のビジョンをイメージしやすくなると思う。

（健康栄養学科）

- ・1、2年生の時から企業研究に取り組んだ方がいいと思います

（スポーツ健康学科）

- ・大学での専門的な講義はもちろん勉強にもなったが、それ以外の教養、社会に出てから生かせるようなものを学べる時間があれば、社会でも生きやすくなると思う。
- ・企業研究をしっかりとすることをお勧めします。
- ・たくさん実習に参加してほしい。たくさんの人と触れ合ってほしい。
- ・ゼミで地域に出て実習できたことや、自分達で考えて行動させてもらえたことで、人前で話す力・自分で考えて動くところが身についたと感じます。社会に出てからも様々な場面で活かしています。学力も大切ですが、社会人になるうえで大切なことを学べたと思います。

【調査分析結果について】

2020年3月卒業生を対象に実施し、約34%から回答を得ることができた。今回のアンケートは、卒業後間もない卒業生が対象ということもあり、比較的高い回答率となった。分析結果については新卒であることと、コロナ禍により慣れない環境の中で社会人をスタートさせた卒業生であることを念頭におく必要があると思われる。

特に心配されたのは早期の離職であるが、回答者ベースで5%の者が退職していた。その理由は、仕事内容、人間関係が主なものであり、給与や残業によるものではなかった。また、転職を検討している者も約1割程度いることがわかった。コロナ禍による影響も少なからず想像でき、本学として卒業生に対してどのような支援ができるのか検討したいところである。

問13の「在学中に身につけた学力や資質・能力が卒業後の進路で活かされていますか」の問いに対して、「とても活かされている」、「まあまあ活かされている」と回答した割合は76%であった。回答者が所属学部の専門性のことをイメージして回答している可能性が高いことが推測されるが、アンケート内容の妥当性の観点から、今後、教養や社会人基礎力などを含めて回答できるよう改善したい。

問14の「社会（現場）で必要とされている能力・態度等」では、コミュニケーション（関係調整）能力と回答した割合が最も高く、83.9%であった。次いで、向上心・前向きさ70.5%、一般的な教養58.9%となっている。進路先に対して実施した同様のアンケートにおいても、コミュニケーション（関係調整）能力と回答した割合が最も高く、次いで、向上心・前向きさなどが挙げられている。コミュニケーション（関係調整）能力などに対する必要性という点では、ある程度企業側と卒業生の考えは一致していると言えよう。また、学力の3要素に分類して回答率の平均をみると、態度・意欲が特に高いことがわかった。

次に、問15「自分で修得していると感じる能力・態度等」については、持続力・継続力、向上心・前向きさ、コミュニケーション（関係調整）能力と回答した割合が高かった。問16「自分が不足していると感じる能力・態度等」では、持続力・継続力や向上心・前向きさについては低いが、それ以外については分散している。新入社員ということもあり、専門的な知識や技術を発揮する場面も少なく、全般的にまだ能力が不足していると認識していると考えられる。また、問17では、自律的にキャリアをデザインするキャリア教育の必要性が挙げられており、関連して問18でも就職に向けた準備として自己分析、業界・企業研究など多く挙げられた。

以上のような卒業生アンケートと進路先アンケートを組み合わせることが、採用側と学生側の一致点を見出すことになるものと思われる。それを押さえた上で企業ニーズを在学中から正しく伝え、教育に活かしていくよう、カリキュラムの検討に取り組むことが求められる。

「2020年度 松本大学 卒業生アンケート調査結果」

2020年（令和2年）9月23日 発行
編集・発行：松本大学 内部質保証室

*無断転載を禁じます。